兵庫県のウスベリケンモン亜科とケンモン亜科

兵庫県産鱗翅類分布資料・9

高島 昭

はじめに

蛾の同定には立派な図鑑が刊行され、大変便利になった。一方、これまで県下の蛾の記録をまとめたものとしては、1975年頃遺山野師氏の手による、もとの当時の文献記録をもとにした兵庫県のシュカリカダオ、スズメガについての目録が唯一ではなかろうかと思われる。これらも「淡路島を除く」となっており、蛾の仲間全体を全地域的に体系的にまとめたものはないといっている。そのため、採集しても記録の整理には不便をともなう。チョウやトンボなどに比べて蛾が敬遠されがちであり、分

布像ははっきりわからないことによるところが大きいと思われる。

そこで筆者は二年前から、兵庫県の蛾相解明の一助にとし、過去に発表された蛾の採集記録を参照できるデータベースづくりに取りかけ、多くの方の御支援、御援助を得ながらこれまで文献に発表された県下の蛾の採集記録を中心に一部不発表記録も含めた目録を作成中の。この目録は幅

大なもので、小蛾類などはデータや参考資料も少なく、まだまとめる段階に至っていないが、

ヤギ科やシャチホコロガ科などに関しては、大蛾類につ

いてはかなり資料も充実してきたので、ある程度データの整理ができたものから順次連載の形で

報告していきたい。

今回はヤギ科のウスベリケンモン亜科、ケンモン亜科について報告する。この間の蛾は比較的

地味で話題にのぼらないものが多いため、分布上注

目すべき種が少なくないこと。深山にひっそりと生息

する種も多いが、データをご覧になってわかると

おり、蝶などと比べて蛾の採集データは少なく、

分布状況が把握できるほど記録の集積ができてい

ないのが実情である。たとえ普通種であっても、

未発表記録や新産地は積極的に発表してほしい。

また、ここに文献に基づく記録と未発表データを

掲載したが、まだまだ多くの編れ落ち等があると思われるので、御教示をよろしくお願いしたい。

本稿を草するためにあたり、次の方々に貴重な文献

の御提供、御考与、採集記録の提供等を賜った。

御芳名を記してお礼申し上げる（五十音順、敬称

は略させていただく）。

相坂耕作、岡本 清、近藤伸一、柴田 剛、

高橋寿郎、中西明徳、広垣政巳、山本義丸

＜地域区分について＞

兵庫県は北は本州南部から南は淡路島まで、ま

た幅高も最長は1,510mの氷ノ山と、その自然環境

は多様に変化して富んでおり、植生も場所によ

って大きく異なる。同様に蛾相も地域によって大

く異なると思われる。そこで、摂津、播磨、但

馬、丹波、淡路の5地域区分をベースに、摂

津地域は甲山系を有する神戸地区と、北摂山系

を背後に控え南部は播名川、武庫川のデルタが発

達した阪神・北摂地域に、面積的に広大な播磨地

域は、中国縦貫道を境に急峻な山地地形となる北

部と平坦な南部に分け、さらに平野及び台地が発

達した中東縦と地日に地形で沿岸部まで丘陵地帯

が迫る西縦に分けた。但馬地域は南北に二分割し、

淡路地域も瀬戸内海型気候の北部と黒潮の影響を

受けていると思われる南部に細分化した。本文中

の地域区分の名称と範囲は次のとおり。

神戸：神戸市

阪神・北摂：近江、西宮、芦屋、伊丹、宝塚、川

西、三田各市及び播名川町

中東播南：姫路市、播磨郡、神崎郡以東、中国

縦貫道以南の播磨地域

中東播北：播磨郡、神崎郡以東、中国縦貫道以

北の播磨地域

西播南：摂南郡、土佐市、宍粟郡以西、中国縦

貫道以南の播磨地域

西播北：中国縦貫道以北の宍粟郡及び佐用郡

但：朝来郡、美々郡の各町

北：豊岡市、出石郡、城崎郡、美々郡の各町

丹波：多紀郡、水口郡の各町

淡路北：淡路名所の各町

淡路南：洲本市及び三原郡の各町

＜本文の構成＞

単なる採集記録の羅列でなく各種ごとに次の項

目について解説した。

- 44 -
1. 全国での分布の概要、産出の特徴
2. 判明している食樹・食草等
3. 県下の分布の概要（注目種であればその旨の記述と分布状況の解説）
   ※注目種について：県内の分布状況やこれまでの記載等から見て、個体数が少ないもの、産地が局所に限定されているもの、分布の限界域にあるもの、全国的に稀種とされているものなどを注目種として表示した。ただし、この分類はあくまでも筆者の主観であることをお断りしておく。
4. 県下の記録（市町ごとにこれまで文献等に記載されたもの、筆者が採集・確認したものの、及び未発表データの提供を頂いたものを列記）
   なお、筆者はすべての標本を検したわけではないので、誤同定、誤記載等の疑問ある場合もそのまま掲載していることをお断りしておく。
   なお、紙面の制約から各県毎に分布図を付けられないので、記録地の一覧図を図1に示した。
5. 現在記録が見られないが、将来調査が進めば発見される可能性のある種について各（県）別の最後に一括解説する。

図1 ウスベリケンモン亜科・ケンモン亜科の採集記録地一覧

6. 参考・引用文献は、最後に一括掲載する。

＜凡例＞
データの記載方法は市町毎に表示し、次の順序とした。また、以下の1)～11)に示す基準に基づいて掲載している。

市町名（採集地名、日、月、年、頭数・性別、採集者名、文献記録の場合は文献番号）
文献記録は原則として原記載のとおりとしているが、3)，4)，6)，7)等に該当する場合はデータの加工を行っており、必ずしも原記載に忠実なものとはなっていないことをお断りしておく。

1) 市町名の配列は原則として行政順としたが、一部前後するところもある。
2) 採集地名は原則として文献での記述に従ったので、同一箇所で採集されたと思われるデータでも複数の表現が存在したり、地名の範囲の大きさに反映されることが多い場合がある（例：南淡町阿万と南淡町阿万上町など）。
3) 地名は国土地理院発行の50,000分の1の地形図に準拠したため、一部に文献での地名と異なる地方名のものがある。例えば、姬路市「広崎山」は「広崎山」とする。ただし、「広崎神社」の場合は「山」の字を付ける。また、文献の中には採集地に固有名詞を挙げているものの多いが、原則としてそれが位置する地名（県名）に統一した（波賀町引原ダム→波賀町引原、関西学院大学千利キャンプ場→三田市香下、西脇高校黒田庄分校→黒田庄町喜多など）。ただし、広い範囲をさす固有名詞（例：六甲山、有馬温泉など）の場合はそのまま表記した。
4) 文献上の採集地名が市町名を特定できない場合や、市町村名、旧村名（地域名）のみの表示したもののについてはそのまま記述した（例：氷ノ山、氷上郡など）。また、市町名が表されていない場合でも、特定することが可能な場合は表示している（例：摩耶山→神戸市摩耶山、先山→洲本市先山など）。なお、町村名合併等で行政区划が変更している場合等は現在の表記に合わせている（例：久崎村→上月町など）。神戸市の場合はさしきかえないと思われる場合は「区」名表示を省略した。
5) 府県境での記録については、他府県のものであることが判別できるものについては含み、どちらかわからないものについては掲載した。
6) 文献によるデータのうち、採集地名、採集日、頭数、性別が不明のものは「ー」で表示した。ただし、原記載に具体的なデータが表示されていなくても文献中の解説文等からデータが判断できるものは記載している。
7) データに採集者名が記載されていない場合の取り扱いについては、文献の発表者が採集したと判断できる場合はその発表者を、文献の発表者が複数の場合には「〇〇（代表者名）ほか」とし、文献の発表者以外の採集者であっても採集者が客観的に特定できる場合は同様の処置を行った。採集者が全く不明な場合は「ー」で表示した。
8) 文献は通し番号とし巻末に一括表示した。この番号は便宜上付けたものであり、概ね文献の発表年順に並べたが一部で順不同のものもある。
9) 本記録箇は現時点での生のデータの集大成という性格を持つので、同一地点での採集記録でもできるだけ多くの記載した。その場合採集地名は重複を避ける「ー」という表現にした。また、同一文献に記載された同一地点、同一採集者による記載については、「ー」で区切り、採集地名は一連のデータの最初に、採集者名と文献番号は最後に表示した。
10) 文献番号がないものは未発表データである。
11) 一度発表されたデータが修正、訂正されたものについては、最新のものを掲載し、訂正等の経緯についても可能な範囲で記述した。ただし、再発表や補欠があったものについても、従来のものと変更がないデータは最初の文献を抜としている。

ウスベリケンモン亜科（PANTHEINAE）

ヤガ科の中では小さな亜科で、後翅のM₃が発達し、翅脈上に毛を密生することがこの亜科の特徴となっている。日本には13種が確認されているが、兵庫県にはそのうち7種が記載されている。このうち、マルバネキシタケンモン、ナマリケンモン、カラフトゴマケンモンの3種は記載が少なく注意を要する。なお、ウスベリケンモン亜科の各種の系統内における分布状況を第1表に示した。

1. Trisuloides rotundipennis Sugi

マルバネキシタケンモン

注目種

1976年にホリシャキシタケンモンから分離され

た。同種と類似するが、前翅の翅型はより丸みをも、翅頂部は突出しない。古い記録は混同されている可能性があるので注意を要する。伊豆半島以西の本州南部、四国、九州に産する。今のところ日本特産種で幼生期は不明である。年2回の発生が認められている。県内では1954年に柏原町で1回採集されているだけで、他の記録は見当たらない。これは最初ボリシャキシタケンモンとして記載された(山本,1958)ものであるが、本種に該当すると再報されたものである。淡路や瀬戸内海沿岸地域などでは注意が必要かと思われる。

[採集記録]

柏原町(柏原,7.VII.1954,1♀;山本義丸)

2. Anacriconta nitida (Butler)

ウスベリケンモン

北海道から九州に至る本土域に普通に見られる。年2回の発生で、クマザサの葉が幼虫が発見されているが、詳しい食性は不明である。県下からは各地で記載されており、普通種である。南関からは記録がないが生息していると思われる。

[採集記録]

神戸市(摩耶山,-,-,-,-,田中篤:同,-,-,-,-,岡村八郎)

宝塚市(西部,18.VII.1977,1♂;23.VI.1979,1♂;13.IX.1986,1♂,東正雄)

川西市(平野,3.VII.1992,1♂,東尾雄)

植内川町(上阿古谷,25.VIII.1981,1♂;20.VII.1982,5♂;1.IX.1982,1♂,村田光和)

黒田庄町(長谷,4.V.1959,1ex.;21.V.1959,1ex.;24.V.1960,1ex.;9.VI.1960,1ex.;岡本清)

姫路市(広瀬町,--,--,--,木村三郎)


三日月町(下本郷,--,--,--,川崎昭人)

豊岡市(正法寺,22.V.1996,1♂,柴田則)

村岡町(藤川平,12.V.1989,1♀,近藤伸一)

熊本町(扇ノ山,25.V.1985,1ex.;足立義弘)

氷上町(--,--,--,山本義丸)

津名町(大町町,29.VI.1972,1♀;3.V.1972,2♀;5.V.1972,2♀,豊登邦明)

洲本市(宇永,12.IV.1981,1ex.;林俊雄)

南淡町(阿万上町,3.VI.1961,--,4.V.1976,--,藤平明)

—46—
3. Anacronicta caliginea (Butler)

コウスベリケンモン

前翅背面は前縁よりもはるかに黒褐色を呈し、中室緑部の波状部を除き、各横線は明瞭でない。
北海道から九州に至る本土域に分布する。年2回の出現でススキを食べることが知られている。

県内からはほぼ全域にわたり平地から山地まで
得られているが、前種よりは少ないようである。

【採集記録】

鈴東市(南港2丁目,25.V,1982, -,新家勝)*

猪名川町(上阿古谷,25.VIII,1981,1♂；1.IX,1982,2♂,夏秋ほか)*

黒田庄町(喜多,1.V,1959,1ex.；12.VI,1961,1ex.,岡本清)*

（太郎,31.VI,1959,1♀,高島昭)

波賀町(新大,7.IV,1988,1♂,高島昭)*

三日月町(下本郷,6.VI,川剣昭子)*

関門町(水ノ山,6.VI,1955,山本義髙)*

水上市(6.VI,1955,山本義髙)*

北淡町(常陸野山,7.VII,1972,1♂,登日邦明)*

南淡町(阿万上町,22.IX,1973,1♂,藤平明)*：同,8.V,1976,1♂,藤平明)*

4. Anacronicta plumbea (Butler)

ナマリケンモン 注目種

♂の触角は間に数本の白色で Anacronicta ウスベリケンモン属の中では唯一の例外である。北海道から九州にかけて分布があり、山地帯では年1回の発生であるが低地で年2回の可能性がある。

県下の記録は少なく黒田庄町、生野町、柏原町、

【採集記録】

黒田庄町(喜多,17.V,1960,1ex.；13.IX,1960,1ex.,岡本清)*

生野町(段ヶ峰,6.V,1953,1♂,山本義髙)*

柏原町(柏原,6.V,1953,♂,山本義髙)*

郡屋町(郡屋,6.V,1953,♂,山本義髙)*

北海道から九州、対馬、屋久島にかけて分布する。

【採集記録】

神戸市(摩耶山,6.V,1985,1♀,田中菜)*：同,6.V,1985,1♂,岡村八郎)*

宝塚市(南門2丁目,3.X,1988, -,新家勝)*


川西市(黒川,20.IX,1997,♂,高島昭)*

三木町(香CA,7.IX,1991,♂,東正雄)*

黒田庄町(喜多,6.IX,1960,1♂,岡本清)*

北淡町(常陸野山,7.VII,1972,1♂,登日邦明)*

南淡町(阿万上町,22.IX,1973,1♂,藤平明)*：同,8.V,1976,1♂,藤平明)*

相生市(瓜生,7.VII,1989,1♀,高島昭)*：同,8.IX,1997,1♂,高島昭)*

上野町(行徳,23.VI,1995,♂,高島昭)*

三日月町(下本郷,6.VI,川剣昭子)*

温泉町(水ノ山,2.VI,1984,♂,奈良町也)*：同,25.V,1985,2♂,足立義弘)*

関門町(水ノ山,6.VI,1955,山本義髙)*

市戸町(新大,6.VI,山本義髙)*

北淡町(常陸野山,7.VII,1972,♀,登日邦明)*


山鹿町(阿万上町,1.III,1978, -,藤平明)*

6. Panthea coenobia (Esper)

カリフトゴマケンモン 注目種

冷温帯性の種で、北海道～九州、対馬に産するが、北海道から中部山地にかけては普通に見られる。

南淡町(阿万上町,1.III,1978, -,藤平明)*

【採集記録】

- 47 -
ほかは報告がない。

【採集記録】
波賀町(引原,25.VII.1988,1♂ ; 9.VII.1988,1♂,高島昭*2)
市島町(妙高山,9.VII.1954,1♂,山本義丸*)

7. Colocasia jezoensis (Matsumura)
ネグロケンモン
北海道から九州にかけて分布し、西南暖地では山地性となる。年2回の発生で、ミズナラ、クヌギ、ハルニレなどが食しとして確認されている。第1化の発生は比較的早く、4月下旬から見られる。発生地での個体数が多い。県下では西播から但馬にかけての山地帯に比較的広く分布していると思われる。

【採集記録】
波賀町(高田山,5.V.1974,1♂ ; 18.V.1974,2♂ ; 6.VI.1975,1♂,遊磨正秀*1 ; 28.IV.1988,1♂ ; 5.VII.1988,2♂,高島昭*2 ; 同,10.IV.1998,2♂,高島昭：
坂の谷,17.IV.1998,2♂,高島昭：
町田島山,5.VII.1975,1♂,遊磨正秀*2)
氷ノ山(--.1954,--♂,山本義丸*3 ; 同,--.--.--♂,遊山ほか*3)
関宮町(鈴伏高原,23.VII.1975,1♀,山本義丸*4)

＜今後記録される可能性のある種＞

1. Colocasia umbrosa Wileman
ヒメネグロケンモン
ヒメウスベリヤガともいう。ネグロケンモンに類似するが、複眼は裸出し、前翅翅表の横線は二次線とはならないこと、外横線は常に明瞭であることで区別できる。腎状紋は通常明瞭で中央でやや狭まり、その中に暗色条もしくは2個の暗色点を含むことが多い。宮城県付近を北限として九州までの本域に分布し、年2回の発生で幼生期は未詳。県下からは関宮町氷ノ山からの記録(山本, 1955)があったがネグロケンモンの間違えであったとして訂正(山本,1989)されており、県下からは未詳である。しかし、岡山県では北部山地で記録があるようで、西播から但馬にかけての山地帯で発見される可能性が高い。

ケンモン亜科 (ACRONICTNAE)

後翅のM2の発達は悪く、横脈のほとんどが中央から発している。幼虫は胸腹部に2次刺毛を生じるものや、1次刺毛の大半あるいは全部に毛束を生じ、ドクガ科の幼虫に似ることが多い。しかし、幼虫が未知の群もあり、将来分類上の位置が変更されるものがあるかもしれない。幼虫はほとんどが樹木性であるが、一部草本や単子葉植物にとくものがある。日本産は50種を知られ、そのうち兵庫県では2種の分布が確認されている。地域別に見ると神戸8種、大阪・北摂21種、中東播南10種、東播北陸10種、西部南播12種、西部北播19種、南但22種、北但8種、丹波地域14種、播磨北部5種、淡路南部8種(第1表参照、1998年9月22日現在)である。このように県内では阪神・北摂の低山地及び西播北陸から南但にかけての氷ノ山周辺の山地帯に多くの種が分布している。これはこの亜科のほとんどの種が森林性であること、この地域が古くからよく調査されていることがあげられる。冷帯性の種が多いこともこの亜科の特徴であるが、これらの種は西播から但馬にかけての山地帯に分布しており、その結果、波賀町引原ダムでは17種、氷ノ山では21種など豊富な産出となっている。能勢妙見山からも山地性の種が見出され、計17種を数える。オオケンモン、ウスムラサキケンモン、ハンノケンモンをはじめ、10種については採集記録が少なく注目種といえる。とくにネグロシマケンモンは全国的にも稀種である。なお、マグラウズミケンモンは大岡産に兵庫県で産地として知られているが、記録の確認ができなかったため分布種数が数えていない。また、過去にアサケンモンの記録があるが、シロケンモンケンモンとの誤認であったとのことであり、やはり分布種には扱っていない。

1. Belciades niveola (Motschulsky)
オオケンモン 注目種
北海道から九州にかけて山地に分布する。幼虫はシナノキを食べ、夏に成虫が現れる。
県内では永らく氷ノ山での古い記録があるだけであったが、最近筆者は波賀町で確認している。今のところ氷ノ山はまだ見えつかっていないが、西播から但馬にかけての山地をさがせば新しい産地はみつかると思う。
第1表 兵庫県におけるウスベリケンモン亜科、ケンモン亜科の地域別分布状況一覧
（1998年9月22日現在）

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>神戸</th>
<th>阪 神北</th>
<th>中 東播</th>
<th>中東播北</th>
<th>中東播南</th>
<th>西播北</th>
<th>西播南</th>
<th>南但</th>
<th>北但</th>
<th>関東</th>
<th>濱路北</th>
<th>濱路南</th>
<th>記録地域数</th>
<th>特記事項</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ウスベリケンモン亜科</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>1. マルバネキシタケンモン</td>
<td></td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>1</td>
<td>0</td>
<td>16</td>
<td>注目種 南方系</td>
</tr>
<tr>
<td>2. ムスベリケンモン</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>10</td>
<td>10</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>3. コウスベリケンモン</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>4</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>注目種</td>
</tr>
<tr>
<td>4. ナマリケンモン</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>5. キバラケンモン</td>
<td></td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>6. カラフトゴマケンモン</td>
<td></td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>2</td>
<td>0</td>
<td>2</td>
<td>注目種</td>
</tr>
<tr>
<td>7. ネグロケンモン</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>2</td>
<td>3</td>
<td>3</td>
<td>4</td>
<td>3</td>
<td>5</td>
<td>4</td>
<td>3</td>
<td>3</td>
<td>0</td>
<td>5</td>
<td>3</td>
<td>5</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ケンモン亜科</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>1. アオケンモン</td>
<td></td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>2</td>
<td>0</td>
<td>2</td>
<td>注目種 山地性</td>
</tr>
<tr>
<td>2. ゴマケンモン</td>
<td></td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>13</td>
<td>0</td>
<td>13</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>3. キラビゴマケンモン</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>6</td>
<td>0</td>
<td>6</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>4. ニッコウアケンモン</td>
<td></td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>7</td>
<td>0</td>
<td>7</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>5. スギシナアケンモン</td>
<td></td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>8</td>
<td>0</td>
<td>8</td>
<td>山地性</td>
</tr>
<tr>
<td>6. スギシナゴマケンモン</td>
<td></td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>4</td>
<td>0</td>
<td>4</td>
<td>注目種 山地性</td>
</tr>
<tr>
<td>7. ヒメケンモン</td>
<td></td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>5</td>
<td>0</td>
<td>5</td>
<td>局地的</td>
</tr>
<tr>
<td>8. シロフヒメケンモン</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>7</td>
<td>0</td>
<td>7</td>
<td>局地的</td>
</tr>
<tr>
<td>9. オオケンモン</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>10</td>
<td>0</td>
<td>10</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>10. サクランケンモン</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>15</td>
<td>0</td>
<td>15</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>11. シモハラケンモン</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>7</td>
<td>0</td>
<td>7</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>12. シモロックケンモン</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>5</td>
<td>0</td>
<td>5</td>
<td>局地的</td>
</tr>
<tr>
<td>13. ユズムラサキケンモン</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>1</td>
<td>0</td>
<td>1</td>
<td>注目種 山地性</td>
</tr>
<tr>
<td>14. リンゴケンモン</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>11</td>
<td>0</td>
<td>11</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>15. オオホソバケンモン</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>4</td>
<td>0</td>
<td>4</td>
<td>注目種 山地性</td>
</tr>
<tr>
<td>16. キハダケンモン</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>5</td>
<td>0</td>
<td>5</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>17. ハンノケンモン</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>2</td>
<td>0</td>
<td>2</td>
<td>注目種 山地性</td>
</tr>
<tr>
<td>18. ウスズミケンモン</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>3</td>
<td>0</td>
<td>3</td>
<td>注目種 局地的</td>
</tr>
<tr>
<td>19. キシタケンモン</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>3</td>
<td>0</td>
<td>3</td>
<td>注目種</td>
</tr>
<tr>
<td>20. シロシタケンモン</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>6</td>
<td>0</td>
<td>6</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>21. ナンケンモン</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>23</td>
<td>0</td>
<td>23</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>22. クビグロケンモン</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>3</td>
<td>0</td>
<td>3</td>
<td>注目種</td>
</tr>
<tr>
<td>23. イボタケンモン</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>3</td>
<td>0</td>
<td>3</td>
<td>注目種 山地性</td>
</tr>
<tr>
<td>24. ニッコウケンモン</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>4</td>
<td>0</td>
<td>4</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>25. シマケンモン</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>15</td>
<td>0</td>
<td>15</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>26. ネジロシマケンモン</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>1</td>
<td>0</td>
<td>1</td>
<td>注目種</td>
</tr>
<tr>
<td>27. クロフケンモン</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>6</td>
<td>0</td>
<td>6</td>
<td>山地性 局地的</td>
</tr>
<tr>
<td>28. シクロフクロケンモン</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>8</td>
<td>0</td>
<td>8</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>29. アドメケンモン</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>0</td>
<td>21</td>
<td>0</td>
<td>21</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>8</td>
<td>21</td>
<td>10</td>
<td>12</td>
<td>19</td>
<td>22</td>
<td>8</td>
<td>14</td>
<td>5</td>
<td>8</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>29</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
2. *Moma alpium* (Osbeck)

ゴマケンモン

ユーラシア種でヨーロッパからアジアにかけて広く分布する。日本では北海道から九州までの本土域に産する。年2回の発生でコンラールを食べるが、クリやシラカンバでも幼虫が発見されている。

県下では神戸、北伝と狭路で記録がないほかは、各地に普通な種である。記録のない地域でも広く分布していると思われる。

[採集記録]

宝塚市(西谷西部,28.VI.1977,1♂; 2.VII.1988,1♀; 9.VII.1988,1♂; 20.VII.1988,1♀; 15.VI.1991,1♀,東正雄33)

東部(武田寺,23.VI.1987,1♂,東正雄33)

川西市(西川,10.VI.1996,1♀; 5.VII.1997,1♀,高島昭44)

JR名古屋(上白骨谷,25.VI.1981,2♂1♀; 12.VII.1982,1♂,夏秋ほか33)

黒田庄町(喜多,16.VI.1960,1♂,岡本清44)

鳴沢市(広島,22.VI.1996,1♂1♀,高島昭44)

波賀町(穂高,8.VI.1974,1♀; 22.VI.1974,1♂; 2.VI.1975,1♂1♀,遊廓正秀44)同-1,1983,1♀,相坂耕作同-25.VI.1987,1♀; 26.VI.1988,1♂1♀,高島昭44)(坂の谷,27.VI.1988,1♀,高島昭)

相生市(瓜生,17.VI.1989,1♀,高島昭44)

三日月町(下本郷,12.VI.1984,1♀; 12.VI.1985,1♀,川副昭人33)

和田山町(今日田,3.VI.1989,1♀,近藤伸一)

氷ノ山(25.VI.1981,1♀,高島昭44)

関門町(氷ノ山,25.VI.1955,1♀,高島昭44)

氷上町(25.VI.1955,1♀,近藤伸一)

3. *Moma furicollis* (Lattin)

キクビコガケンモン

北海道と本州から記録があり、前種と近縁である。年1回の発生と思われる。幼虫はクマシデから見つかっている。県下では宝塚市、三日月町、波賀町、氷ノ山、村岡町の6カ所から報告があるが、前種よりはるかに局地的で個体数も少ない。しかし、低山地から山地まで見られ、食樹さえあれば少ないながら各地に生息する可能性は高い。

[採集記録]

宝塚市(西谷西部,16.VI.1977,1♀,東正雄33)

波賀町(引原,2.VII.1988,1♀; 25.VII.1988,1♂1♀,高島昭44)(坂の谷,5.VI.1998,1♂,高島昭)(同,10.VI.1998,1♀,高島昭)

三日月町(下本郷,12.VI.1984,1♀,川副昭人33)

村岡町(野川川,12.VII.1989,1♀,近藤伸一)

氷ノ山(25.VI.1955,1♀,高島昭44)

4. *Nacna malachitina* (Oberthür)

ニッコウオケンモン

北海道では道南東部と礼文、寛願の各島、本州から九州にかけて分布する。西南暖地ではおそらく年2回発生と思われる。幼生期はっきりわかっていないが、シソ科のニガクサから幼虫が得られたことがあるという。県内での記録は山地に限られ、西播西部から北海までかけてと市島町妙高山、能勢妙見山に孤立的に得られている。なお、大阪府箕面公園では少ないながら産するようで、北陸地域の山地には連続的に産するかもしれない。

[採集記録]

妙見山(29.VI.1983,1♂,夏秋ほか33)

波賀町(引原,23.VI.1987,1♀,高島昭44)(坂の谷,12.VI.1988,1♀,高島昭)

温泉町(野ノ山,2.VI.1984,1♀,谷田昌也33)

朝来町(須留ケ峰,9.VI.1975,1♂,遊廓正秀44)

氷ノ山(25.VI.1955,1♀,高島昭44)

関門町(氷ノ山,25.VI.1955,1♀,高島昭44)

市島町(妙高山,12.VI.1984,1♀,山本義丸44)

5. *Nacna sugitai* (Nagano)

スキダニアオケンモン

日本特産種で、秋田県以南、九州まで産する。西南暖地では山地に限られ少ない種となる。夏から初秋にかけて発生する。食性はわかっていないが、八千代町笠形山でミカエリソウから採集された幼虫から本種の羽化が確認された(岡本,1995)。県内では前種と同じく山地で得られているが、黒田庄町のような低山地の記録もある。

[採集記録]

妙見山(26.VI.1983,6♂4♀; 18.VI.1984,2♂4♀,夏秋ほか33)

黒田庄町(喜多,24.IX.1964,1♀; 10.I.1967,4♂♀,岡本清44)

八千代町(笠形山,12.VI.1984,幼); 7.IX.1967,1♀
6. *Harrismennia marmorata* (Hampson)

スギタニコマケンモン 注目種

北海道から九州にかけて産し、年２回の発生と
思われる。幼生期はよくわかっていない。北アメリカ産の近縁種はイボタシハシドを食べ
るという。県内では山地性で産地は局所化され、波賀
町坂の谷、氷ノ山、扇ノ山、篠ヶ峰の４カ所で報
告されているだけである。中央山地を中心に充分
な調査が必要である。

【採集記録】

波賀町(坂の谷,26.VI.1998,1♂)、(高島昭)
温泉町(扇ノ山,11.VI.1984,1♂1♀; 25.VI.1984,1♂,
谷田昌也♂)
関宮町(氷ノ山,5.VI.1954,2♂♂,山本義丸♂)
氷上町(篠ヶ峰,26.VI.1952,1♂,山本義丸♂)

7. *Gerathodes angustata* (Butler)

ヒメケンモン

関東地方から四国北部、九州北部の暖温帯落葉
樹林に生息する。食葉はクズギが知られている。
春から発生するが周年経過はよくわかっていない。
おそらく２～３回の発生ではないかと思われる。
ミツベンケンモンとも呼ばれる。

県下ではやや局地的で、県南部と波賀島の里山
の域で見られるが、低地の二次林に優勢な蛾
なので実際には広く分布していると思われる。

【採集記録】

川西町(黒川,18.V.1996,1♀; 3.V.1997,1♂,高島昭)
猪名川町(上阿古谷,12.V.1982,1♀,夏秋ほか)
姫路市(広巻山,22.VI.1996,2♂; 6.VII.1996,1♂,高島
昭♂)
三日月町(下本郷,6.VI,−,−; 13.VI.1983,−,川副昭
次♂)
津名町(大町畑,5.V.1972,1♂,登日邦明♂)

8. *Gerathodes lichenodes* (Graeser)

シロフハメケンモン

前線と縁線であるが♂では中室付近により明瞭
な褐色縁片を混じ、中室下方の白色線も明瞭。
ともかく中央部は黒色を帯びる。食性はよくわか
っていないがコナラ属を食べるとと思われる。
北海道と本州に産する。やや局地的とされ中国地方
以西では発見されていない。県下では中-西播地
域から氷ノ山にかけてと、波賀島地域に限られて
いる。前線と同様、低地の二次林に見られるほか山
地でも採集されている。発生地での個体数も多い。

【採集記録】

姫路市(広巻山,6.VII.1996,2♂♂2♀,高島昭♂)
波賀町(原,26.VI.1998,1♂; 2.VII.1998,1♀,高島昭
♂; 26.VI.1998,1♂,黒谷昭♂)
相生町(新生,7.V.1989,1♂; 17.VI.1989,1♂,高島昭
♂)
三日月町(下本郷,6.VI,−; 7.VI.1983,−,−; 9.VI.
1983,−; 6.VI.1984,−,川副昭次♂)
氷ノ山(−,−,−,山本義丸♂)
氷上町(篠ヶ峰,26.VI.1952,1♂,山本義丸♂)

9. *Acronicta major* Bremer

オオケンモン

北海道から九州まで本土域と対馬に普通に産
する。年２回の発生で幼虫はカエデ、リンゴ、スモ
モ、ニセアカシアなど多種の広葉樹に

県下では極外局地的な産出で、神戸から中東播
にかけては大きな分布空白域となっている。

【採集記録】

西宮市(甲東園,20.V.1970,1♀,東正雄♂)
宍粟市(栗ノ谷,9.VI.1979,−,新家勝♂; 光明
町,9.IX.1988,−,新家勝♂)
妙見山(5.VII.1984,1♂,夏秋ほか♂)
波賀町(原,27.VII.1973,1♂; 12.VII.1974,1♂,遊磨
正秀♂; 13.VII.1979,2♂,相坂耕作; 10.VII.
1987,1♂1♀; 25.VII.1987,2♂♂; 17.VI.1988,1♂,
高島昭♂; 24.VII.1988,1♂,夏秋ほか♂)
氷ノ山(−,−,−,遊磨正秀♂)
氷上町(氷ノ山,−,−,−,山本義丸♂)
氷上町(氷ノ山,−,−,−,山本義丸♂)
10. *Hyboma adaucta* (Warren)
サクラカブネモン
北海道から九州北部まで分布する。年2回の発生が考えられる。幼虫はサクラ類に発生する。県下では低山地を中心に各地で見られる。黒田庄町では普通に得られているようであるが、全般に個体数は少ないものである。

【採集記録】
高砂市(−,17.VI.1966,1ex,岡本清: 米田町,4.VI.1977,1ex,岡本清:)
黒田庄町(喜多,17.V.1960,1ex; 24.VI.1960,2exs; 13.IX.1960,2exs; 14.IX.1960,1ex; 10.V.1961,2exs; 7.VI.1961,1ex; 21.IX.1961,1ex; 23.IX.1961,2exs; 23.IX.1962,1ex,岡本清:)
三日月町(下本郷,−,1984,−,川副昭)
水ノ山(−,−,−,遠山ほか:)
水上郡(−,−,−,山本義丸:)
南淡町(阿万上町,30.VI.1968,−; 19.V.1973,−,藤平明:)

11. *Plataepta pulvrosa* (Hampson)
シロハラカブネモン
前翅翅底に黒褐色条があり、この下側に接して卵形の暗色帯がある。後翅は外縁部が暗帯となっている。本州、四国、九州、対馬、屋久島に分布し、年2回発生する。幼虫はアキグムから得られている。県下では平地から丘陵地にかけて啓生しているが、記録されている地域は少ない。局地的な分布というより調査が充分でないだろう。県下全域に広く分布するものと思われる。水ノ山でも記録がある。

【採集記録】
宝塚市(宝塚1.30.VII.1986,1♂,東正雄:)
高砂市(−,10.VI.1965,1ex,岡本清:)
黒田庄町(喜多,16.V.1960,1ex; 21.V.1960,1ex; 24.V.1960,1ex; 11.VI.1960,1ex; 12.VI.1960,1ex; 9.VI.1960,1ex; 8.VI.1961,1ex; 30.VI.1961,1ex,岡本清:)

12. *Plataepta aibistigma* (Hampson)
シロモンカブネモン
アサケモンに似ているが外縁線の白紋列はR脈間ではほぼ直線状。前翅黒帯は白色長冊円形で中心部の暗色点は大きい。日本産地で静岡県に産された産地があるほかは近畿以西、四国、九州北部、対馬に産する。年2回発生する。卵生期は未掲。県下ではやや局地的である。宝塚市の記録はP. prainosa アサケモンとして報告(新家, 1982)されていたもので、「宝塚の昆虫V」(宝塚市教育委員会, 1983)にも引用されていた。本種の調査であったとのことである(本人私信)。

【採集記録】
神戸市(摩耶山,27.VII.1967,−,岡村八郎:)
宝塚市(武庫川町,22.VI.1987,−,新家雄:)
猪名川町(上阿谷谷,20.VII.1982,2♂,夏秋ほか:)
波賀町(引原,22.VI.1974,1♂,趣高正: 1,同,1.IX.1988,1♂,高島昭:)
三日月町(下本郷,−,−,−,−,−,川副昭:)
柏原町(柏原,−,−,−,山本義丸:)

13. *Triaena subpurpurea* (Matsumura)
ウスムササキツメモン 注目種
寒帯性の種で北海道から本州中部にかけては連続的に分布するが、西南暖地では山地に局地的に産する。個体数は少なく年1回6～7月に出現する。県下では水ノ山で古い記録がある1例だけである。近県では岡山県に記録があり、西播から仏馬にかけての高地には分布していると思われる。

【採集記録】
関門町(水ノ山,−,−,1955,1♂,山本義丸:)

14. *Triaena intermedia* Hampson
リンゴカブネモン
本土型に分布し平地から山地に生息する。庭木などでも見ることがある。年1回の発生で、幼虫はサクラ、ヤナギ、ハルニレなど多くの落葉広葉樹に発生する。県下での採集例はそう多くないが、
平地から山地まで各地で見られる。
【採集記録】
神戸市(摩耶山, -., -., -.,田中篤 † : 同, -., -., -.,岡
村八郎 ‡)
宝塚市(南口 丁目, 11.X.1978, -., 新家勝 †)
妙見山(29.VII.1983, 1 Ψ, 夏秋ほか ‡)
高砂市(28.IX.1962, 1ex.; 26.VII.1963, 1ex.; 15.IX.1965, 1ex.; -., IX.1982, 2exs., 岡本清 ‡)
黒田庄町(喜多, 18.V.1960, 1ex., 岡本清 ‡)
波賀町(引原, 26.VII.1974, 1 Ψ, 境野正秀 †; 坂の谷, 28.VII.1998, 1 Ψ, 高嶋昭)
三日月町(下本郷, -., VIII.1983, -., 川副昭人 ‡)
温泉町(原ノ山, 2.VI.1984, 1 Ψ, 谷田昌也 †)
其ノ町(大町, 26.VII.1972, 1 Ψ, 昭日邦明 †)
南淡町(阿万上町, 11.VI.1961, -; 9.V.1984, -., 藤平
明 †)

15. *Triarena cuspid* (Hübner)
オアホソバケンモン 注目種
北陸道, 本州に分布するが北方系の種で, 西南
暖地では山地性の稀種となる。年 2 回の発生と思
われる, 稀少なハパンノキから得られている。
県下では宝塚市, 波賀町, 関宮町で記録がある。
水ノ山を中心とした山地帯には比較的広く分布す
れないのではないかと思われるが, 宝塚市の記録は低
標高地帯であり注目される。
【採集記録】
宝塚市(西谷西部, 16.VI.1990, 1 Ψ, 東正雄 ‡)
VI.1998, 1 Ψ, 高島昭: 同, 12.VII.1998, 2 Ψ, 高島昭)
関宮町(水ノ山, 16.VI.1955, 1 Ψ; 11.VI.1956, 2 Ψ, 山
本義丸 ‡)

16. *Triarena leucopus* Butler
キハダケンモン
同属の各種に似るが前翅は最も幅広く短い。ま
た前翅の色調も明るく, 二重の各横縁は顕著であ
る。北陸道から本州, 四国に産するが, 関東以西
の本州では局地的で, 東海, 紀伊半島, 兵庫県,
香川県に記載がある。兵庫県は分布の西端部にな
っている。暖地では年 2 回の発生である。
県下では, 宝塚市, 船名川町, 黒田庄町, 柏原
町で採集されており, いずれも丘陵地から低山地
の二次林である。県西部, 北部と淡路からは今年
ところ記録は見られず, 黒田庄町喜多の記録が本
州の西端である。
【採集記録】
宝塚市(西谷町, 16.VI.1963, 1 Ψ, 田中篤 †: 西谷西部, 14.V.1977, 1 Ψ; 24.VI.1978, 1 Ψ; 17.VI.1989, 1 Ψ; 16.VI.1990, 1 Ψ, 東正雄 ‡)
船名川町(上阿古谷, 28.VII.1963, 2 Ψ, 境野守男 †)
黒田庄町(喜多, 15.VI.1960, 1ex.; 17.VI.1960, 1ex.; 1.VI.1960, 1ex.; 12.VI.1961, 1ex.; 12.VI.1962, 1ex.,
岡本清 ‡)
柏原町(柏原, 18.V.1951, 1 Ψ, 山本義丸 †)

17. *Jocheaea albi* (Linnaeus)
ハンノケンモン 注目種
ユーラシア種で北海道から本州に産する。北海
道には普通であるが, 南に行くにつれて山地性と
なり, 西北西部では局地的で少ない種である。ミ
ズナラ, オニギリツメなどの温帯林の広葉樹につき,
年 2 回発生する。県下では, 高原ダムと五ノ山に古い記録があるのとある。中央山地での
発現が期待される。
【採集記録】
波賀町(引原, 29.VII.1974, 1 Ψ, 境野正秀 †)
関宮町(水ノ山, -., -., 1955, 1 Ψ, 山本義丸 †)

18. *Hylonyctia carbonaria* (Graeser)
ウスズミケンモン 注目種
マグラウスズミケンモンによく似ているが, Ψ
♂とともに前翅の色は白色に近く, 前翅の白色鱗
片は少ない。関東以西, 北九州地方までのクスギを
主とする二次林に見られるが局地的で産出は連続
的でない。県内の記載はなく, 宝塚市, 宝塚市, 三日月町で得られているに過ぎ
ないが, 宝塚市では市街地の真ん中で得られており
注目される。
【採集記録】
神戸市(山田町, 28.VII.1973, 1 Ψ, 松本健爾 ‡)
宝塚市(武庫川町, 21.V.1988, -., 新家勝 †)
三日月町(下本郷, -., V.1984, -., 川副昭人 †)

19. *Hylonyctia catocaloida* (Graeser)
キシタケモン 注目種
前翅に近縁であるが, 前翅基半部と縁毛は鮮や
かな黄色で一見して区別できる。ミズナラ林を中
心に冷温帯を主たる生息域とし, 北海道から九州
まで分布するが、四国や九州では地帯に限られ
る。食樹はミズナラが知られている。年1回、夏
の発生である。
県下の採集例は少なく、大阪との府県境にある
能勢妙見山を含めてもわずかに3例があるに過ぎ
ない。このうち姫路市広坂山の記録は、周辺にミ
ズナラのある山地帯からは遠く離れており、それ
以外に食樹があるものと思われる。
【採集記録】
妙見山(5.VII.1984,1♂,夏秋ほか2♀)
姫路市(広坂山,6.VII.1996,1♂,高島昭4♀)
大屋町(田尻山,5.VII.1975,1♂,遊磨正秀3♂)

20. Hylomyctes hercules (Ferder & Rogenhofer)
シロシタケモン
日本産ケンモンヤガのうちでも最大種の一つ。
北海道から九州にかけての本土域と対馬に分布し、
年2回の発生で、ハルニリ、ケヤキなどニレ科植
物をたてる。県下では採集記録はあまり多くないが、
平坦地から山地にまで及んでおり、普段的に
分布するものと思われる。
【採集記録】
猪名川町(上阿 tablets, 25.VIII.1981,1♂♂,夏秋ほか2♀)
波賀町(局, 29.VI.1974,1♂♂; 2.VI.1975,1♂♂,遊磨正
秀1♀: 同, 5.IX.1987,1♂♂; 9.VII.1988,1♀,高島昭
4♀)
三日月町(下本郷, -XI. - - XI. 1984,1♂♂,川副昭
3♀)
豊岡市(山本, 18.VI.1973,1♂,山根政之1♀)
氷ノ山( - - - - 遠山ほか1♀)
南淡町(阿方町, 28.V. 1973,1♀,藤平明1♀: 同, 1.VII.
1973,1♀,藤平明1♀)

21. Viminia ruminis (Linnaeus)
ナシケモノ
前翅の斑紋には多少の変異がある。本種はユー
ニアシアの広域分布種で、日本では本土域と対馬、
屋久島に普遍的に分布する。年2回以上の発生で
食性は広く各種の灌木や草本に属する。県内でも各
地で採集され、個体数も多い。最も普通のケモノ
ンである。
【採集記録】
神戸市(摩耶山, - - - - 田中藤1♀)
宝塚市(神戸市2丁目, 21.VI.1979,1♀, 新家勝1♀; 武庫
川町, 3.V. 1989,1♀, 新家勝1♀; 光明町, 8.VIII.1988,1♀,
新家勝1♀; 西谷西部, 22.VII. 1987,1♀, 東正雄3♀; 武田尾, 26.VI.1992,1♀♂,東太幅3♀)
川西市(平野, 14.VII. 1992,1♀, 東良雄3♀; 黒川, 13.VII.
1996,5♂♂; 3.V. 1997,3♂♂; 5.VII. 1997,1♀,高島昭
8♀)
猪名川町(上阿古谷, 25.VII. 1981,1♀; 1.IX. 1982,1♂♂, 
夏秋ほか2♀)
黒田庄町(喜多, 27.III. 1959,1♂; 9.IV. 1959,1♂♂; 4.
V. 1959,1♂♂; 15.V. 1959,1♂♂; 25.VI. 1959,1♂♂; 
28.IX. 1959,1♂♂; 13.IV. 1960,1♂♂; 19.IV. 1960, 
1♂♂,岡本信1♀)
姫路市(太市, - - - - 丸谷ほか3♀)
波賀町(局, 8.VI. 1974,1♂♂; 22.VI. 1974,1♀,遊磨正
秀1♀; 同, 7.VII. 1988,1♂♂; 18.V. 1988,1♂♂; 26.VI.
1988,1♂♂; 17.VI. 1988,1♂♂; 8.V. 1988,1♀,高島
昭3♀; 同, 24.IV. 1998,1♀♂,高島昭)
相生市(瓜生, 30.VI. 1989,1♂♂,高島昭4♀)
上郡町(船坂, 4.X. 1997,1♂♂,高島昭)
三日月町(下本郷, -IX. - - - - - VI. 1984,1♀♂,川副昭
3♀)
通町(扇ノ山, - - - - 遠山ほか1♀)
氷ノ山( - - - - 遠山ほか1♀)
氷上郡( - - - - 山本義丸1♀)
北淡町(常陸寺山, 5.VII. 1972,1♂♂,登日邦明1♀)
津名町(大田倉, 3.IV. 1972,1♂♂; 5.IV. 1972,1♀; 5.V.
1972,1♂♂,登日邦明♂; 同, 29.IV. 1972,1♀,登日邦
明♀; 同, 8.VII. 1972,1♂♂,登日邦明♂)
洲本市(中津川, 7.IV. 1972,1♂♂,登日邦明♂)
南淡町(阿方町, 25.IV. 1958,1♀; 11.X. 1959,1♂♂,藤平
明1♀; 同, 14.VII. 1972,1♂♂,登日邦明1♀; 阿方町, 
-IX. - - - - - X. - - - - - 藤平明1♀)

22. Viminia digna (Butler)
クビグロケモノ
注目種
本州中部から九州にかけて分布するが、産出は
極めて局地的である。年2回の発生と思われ、カ
キツバタ、イタドリが草食として記録されている。
県下では、これまで神戸市と淡路(津名町、洲
本市)で得られており、淡路の記録は大図鑑でも
紹介されている。四国には記録があるようだが、
本州側では近県の記録を知らない。地震原(個
原?)に固有な種であるとすれば生息環境の保護
が必要である。県南部の湖沼周辺に残る草原での
発見が期待される。
【採集記録】
神戸市(伊川谷,20.V1975,1♂,松本健嗣**)
津名町(大町畑,3.V1972,1♂; 5.V,1972,1♂,登日邦明*)

23. *Craniphora lingstrii* Schiffermüller

イボタケモノ 注目種
北海道から九州にかけて分布し、幼虫はイボタ
から発見されている。大図鑑では7～9月の出現
があるが、5月の採集例も多く県下では年2回以
上の発生となる。
県下では局地的な少ない種で、西播北部から氷
ノ山にかけて記録がある。中央山地一帯に分布す
ると思われる。

【採集記録】
波賀町(引原,22.V1976,1♂,遊遊正秀**1**: 同,7.IX.
1988,1♂,高島昭**2**: 坂の谷,28.IV1998,1♂,高島
高島昭)
関宮町(氷ノ山,−,−,1954,−,山本義丸**)

24. *Craniphora praeflara* Hampson

ニッコウケモノ
前種に近縁であるが、一般に大きく前翅基部後
縁部に黄緑色の鱗片を有することで区別できる。
冷温帯の種で北海道から九州にかけて遡るが
西南暖地では华南種となる。幼虫期は不明である。
県下では川西市、波賀町、氷ノ山などで得られ
ている。大阪府翼南でも記録があり、県南東部の
山地では広く分布している可能性がある。

【採集記録】
川西市(黒川,7.VI.1997,1♂,高島昭**3)
波賀町(引原,22.VI.1974,1♂,遊遊正秀**1**: 同,−,−.8.
1988,1♀,高島昭**2**: 坂の谷,5.VI.1998,1♂,高島
昭)
氷ノ山(−,−,−,遠山ほか**)
関宮町(氷ノ山,−,−,1954,−,山本義丸**)

25. *Craniphora fasciata* (Moore)

シマケモノ
熱帯アジアに分布の中心を持つ南方系の種で、
関東南部を北限とし、東海・近畿以西に広く分布
する。年数回の発生と思われる。ネズミモチやと
イラギが食樹として知られている。県下では南部
から盛路にかけての平地から低山地に広く分布し
ている普通種である。但馬地域からの発見が期待
される。

【採集記録】
神戸市(摩耶山,−,−,−,岡村春郎**4)
西宮市(香月園,20.VI.1950,1♂,東正雄**3)
宝塚市(南口2丁目,19.V1989,−,新家勝**3**: 光明
町,31.VII.1988,−,22.VI.1990,−,新家勝**3**: 西谷
西部,14.VI.1977,1♂,東正雄**3**: 武田尾,15.VII.
1991,1♂,東正雄**3)
高砂市(−,16.VI.1965,1♂,岡本清**)
西脇市(−,1.VI.1959,1♂,猪股貞一)
相生市(瓜生,7.III.1989,1♂,高島昭**2)
三日月町(下本郷,−,1983,−,1984,−,川崎
昭人**3)
氷上町(−,−,−,−,山本義丸**)
津名町(大町畑,5.V1972,2♂,登日邦明*: 同,1.VI.
1972,1♂,登日邦明**:)
洲本市(中津川,3.VII.1972,1♂,登日邦明**: 物部,2.
V.1981,1♂,林俊雅**3)
南淡町(阿万上町,10.VI.1962,−,藤平明**3**: 同,2.V.
1986,−,藤平明**3**)

26. *Craniphora oda* (Lattin)

ネジロシマケモノ 注目種
斑紋のパターンは同属の各種に似るが、基部か
ら内縁線に至るまで一部に灰白色で、一見して区
別できる。採集例は極めて少なく、これまで広島
県藤平村、新潟県朝日村と氷ノ山(大町畑横行)で
得られているだけである。兵庫県版レッドデータ
ブックにはその名があがっていないが、Aクラス
の稀有種である。7月に得られている。幼虫期は不
明である。外国では朝鮮、沿海上州に分布する。
深い山地で局地的に発生している可能性が高く、再
発見が期待される。

【採集記録】
大屋町(横行,23.VII.1957,1♂,山本義丸**)

27. *Craniphora jankowskii* (Oberthür)

クロフケモン
前翅の斑紋には地理的変異がある。北海道から
九州にかけて対馬に分布し、年2回の発生と思
われる。トネリコを食樹としている。
県下での記録は少なく、山地帯に限られている。
中央山地一帯に広く分布していると思われる。

【採集記録】
神戸市(摩耶山, -.-.-, 田中蔵)’
妙見山(28.VI.1983, 2♂1♀, 夏秋ほか②)
加美町(三國岳, 17.VI.1960, 1♂, 椎原凉一)
波賀町(原, 18.VII.1973, 1♂ ; 8.VI.1974, 1♂ ; 13.VI.
1974, 1♂, 遊廊正秀’ : 坂の谷, 28.VII.1998, 1♂, 高島昭)
氷ノ山(—.-.-.-, 山本義丸♂ ; 同, —.-.-.-, 遊廊ほか③)

28. Narcotina niveosparsa (Matsumura)
シロフクロクモノ
北海道から九州にかけてと対馬山地分布が全
般的に少ない種である。夏に発生するが幼生期は
不明である。本種は分類上の位置が微妙で、幼虫
の発見が期待されている。県下では西播から対馬
・丹波にかけての地域と能勢妙見山に孤立した分布
を示す。大阪府東南にも記録があるので、北摂
から六甲山地にかけても発見されるだろう。発生
地での個体数は少ないものではないとの報告(川
副, 1987)もある。

【採集記録】
妙見山(7.VII.1984, 1♂ 3♀, 夏秋ほか④)
波賀町(原, 25.VI.1988, 1♂, 高島昭⑤)
相生市(瓜生, 30.VI.1989, 1♂, 高島昭⑥)
三日月町(下本郷, -.-.-.-, -.-.-.-, 川副昭
人⑦)
大屋町(田部山, 5.VII.1975, 2♂, 遊廊正秀⑧)
氷ノ山(—.-.-.-, 山本義丸♂)
関宮町(錦初原, 24.VI.1974, 1♀ ; 23.VI.1975, 1♀, 山
本義丸⑨)
市町(妙高山, 28.VI.1954, -.-, 山本義丸♂)

29. Lophonycta confusa (Leech)
アミメケンモン
分類上の位置が不確定な種で、かつてコヤマ亜
科やキノコヨトウ亜科に含められていた。したが
って、アミメコヤマ、アミメキノコヨトウという
別称がある。本州から九州に分布する。幼生期は不
明である。県下では低山地から山地にかけて広く
分布し、各地で普通に見られる。

【採集記録】
神戸市(六甲山, -.-.-.1933, -.-. 屋根江聡男♂ : 摩耶山, -.-.
-.-.-.-, 田中蔵♀: 同, 2.VI.1968,- ; 25.VI.1985,-,
岡村八郎⑩)
宝塚市(西谷西部, 25.VI.1977, 2♂ ; 6.VIII.1977, 1♂ ;
27.V.1978, 1♂ ; 22.VI.1985, 1♂ ; 13.VI.1987, 1♂
; 1.V.1987, 2♂ 1♀ ; 8.VIII.1987, 1♀ ; 2.VII.1988,
1♂ ; 6.VIII.1988, 1♂ ; 20.VIII.1988, 2♂ ; 15.VI.
1990, 2♂ ; 8.VI.1991, 1♂, 東正雄⑪)
川西市(黒川, 13.VII.1996, 1♂ ; 7.VI.1997, 1♂, 高島昭
⑫)
箱崎町(上阿古谷, 25.VI.1981, 3♂ ; 12.VI.1982,
5♂ ; 20.VI.1982, 3♂ 1♀, 夏秋ほか②)
黒田町(喜多, 27.V.1959, 2♂♂ ; 11.VI.1959, 1♂♂ ;
2.VI.1960, 1♂♂, 岡本清♂⑬)
姫路市(広瀬山, -.-.1982, -.-. 木村三郎⑭ : 同, 6.VII.
1996, 1♀, 高島昭⑮ ; 同, 28.VI.1995, 1♂, 高島
昭)
波賀町(原, 28.VI.1996, 1♂♂, 高島昭 ; 引原, 4.VII.1973,
1♂ ; 18.VII.1973, 1♂ ; 27.VI.1973, 1♂ ; 22.VI.
1974, 1♂ ; 29.VI.1974, 1♂, 遊廊正秀⑰ ; 同, 2.VII.
1988, 1♂ ; 16.VIII.1988, 1♀, 高島昭⑱)
三室山(—.-.-.-, 遊廊ほか③)
相生市(瓜生, 7.VI.1989, 1♂ ; 30.VI.1989, 1♂, 高島昭
②⑭)
上郡町(行徳, 23.VI.1995, 1♂ 1♀, 高島昭⑭)
三日月町(下本郷, -.-.-.-, -.-.-.-, -.-.-.-, 川副昭
人⑦)
豊岡市(山本, 27.V.1973, -.-. 山根政之⑲ ; 正法寺, 2.
VIII.1998, 1♂, 柴田剛)
朝来町(須留ヶ峰, 9.VII.1975, 1♂, 遊廊正秀⑳)
氷ノ山(—.-.-.-, 遊廊ほか③)
関宮町(氷ノ山, -.-.-.-, 山本義丸♂)
氷上町(—.-.-.-, 山本義丸♂)
洲本市(中津川, 11.V.1972, 2♂♂, 登日邦明⑴)
南淡町(阿万下町, 4.VI.1984, - ; 29.VI.1987, -.-. 藤平
明⑳)

＜今後発見される可能性がある種＞

1. Cymatophoropsis unca (Houlebert)
ホソバミツモンケンモン
岡山県(高梁市、新見市、備中町ほか)、広島県、
高知県、宮崎県、德島県で記録があるがいずれの
地でも極めて局地的で個体数も少ないAクラスの
注目種。幼生期は未知であるがおそらくクロウメ
モドキを食べているのではないかと推測される。

- 56 -
岡山県では、県西部の石灰岩地帯の深い渓谷地帯が生息域となっている。兵庫県でもクロウメモドキが多い渓谷地帯を丹念に観察しなければ見つかるのではないかと思っている。

2. *Platyplecta pruinosa* (Guenée)

アサケメン

翅表面に個体変異が大きいが、外縁は白色性状で幅広いという点で他の種と区別できる。

シロモンケンソンより暖地性で関東以西から琉球列島にかけてと対馬、伊豆諸島に分布する。年2回の発生でギミ属の食樹とする関係で、明るい低山地や林縁部、草原地帯が主な生息地と考えられる。県下では宝塚市での記録が1例（新家、1982）あったが、シロモンケンソンとの誤認によるものであったことがわかった。

3. *Triena isoscytis* (Sugi)

ゴマシオケメン

東北地方から中部地方にかけての山地に普通に産し、四国剣山でも高地に少なくないという。岡山県からも記録がある。幼生期は不明。生息域はブナミズナラ地帯に一致する。年2回の発生である。兵庫県でも水ノ山を中心とした西播から但馬にかけての高地に生息している可能性が高い。

4. *Hylyonyctia subornata* (Leech)

マダラウズミケメン

ウズミケメン類に似ているが、翅表面の白色縁線を疑う度合いは強く、後翅は灰黄色、日本特産種でクヌギを食することが知られているが採集例は少ない。関東地方から近畿地方にかけての丘陵地帯に寄り得られるというが、産地はかなり局地的である。周年経過は不明である。大 Bakanによると兵庫県産とあるが、山本義丸氏によると大阪府池田市産のものが疑って兵庫県産として記録されたのではないかとのことである。筆者が手許にある文献では兵庫県産のデータを確認できなかったため、未確認種として扱った。大阪府箕面公園や池田市でも採集されているとのことで、兵庫県からも見つかることだろう。

5. *Craniophora harmandi* (Poujade)

タカオケメン

イボケメン、ニコウケメンとよく似ているが前者とは外縁内側の白色部の形状で、後者は前翅基部内線に黄緑色縁片を持たないことから区別できる。東京都高尾山、紀伊半島、四国、対馬で発見されており、常緑広葉樹を主体とした暖湿帯林に優先的な種との印象を受ける。北摂地域から六甲山系、淡路での発見が期待される。

6. *Craniophora pacifica* Filipjev

クシロツマジョケメン

北海道には広く分布するが、それ以外では岡山県備中町に記録があるだけで孤立した産地となっている。本県においても水ノ山を中心とした深い山地で発見される可能性がある。

7. *Thalatha japonica* Sugi

ウスイロケメン

日本特産種で、東京都高尾山付近を北限として東海地方から紀伊半島、四国、九州北部、対馬、八丈島から得られている。年2回の出現在幼生期は不明である。県南部の常緑広葉樹林の残る山地から海岸带地で発見される可能性がある。

＜参考・引用文献＞

1) 戸沢信義(1935) 六甲山産蛾類目録 関西昆虫雑誌 2(3):30–31。
2) 山本義丸(1955) 水ノ山の蛾について(第1報) 兵庫生物 3(1/2):3–6。
3) 山本義丸(1956) 水ノ山の蛾について(第2報) 兵庫生物 3(3):121–123。
4) 山本義丸(1958) 水ノ山の蛾について(第3報) 兵庫生物 3(4):237–239。
5) 山本義丸(1959) 水ノ山の蛾類について(補遺) 兵庫生物 3(5):383–384。
6) 7) 田中 葵(1967) 神戸市摩耶山に産する大蛾類 佳香蝶 19(71):89–104。
7) 8) 田中 葵(1967) キハダケメンの採集記録 佳香蝶 19(69):39。
9) 登日邦明(1973) 淡路島産蛾類分布資料(Ⅰ) 蛾類通信 73:215–224。
10) 登日邦明(1973) 淡路島植物の記録 PARNASSIUS 9-9–16。
11) 遊磨正秀(1978) 引原ダム(宍粟郡波賀町)のヤガ類(Ⅰ) きべりはむし 6(12):16–19。
12) 藤平 明(1974) 南淡の蛾(Ⅱ)

13) 藤原順一(1974) 中國山脈東端の昆虫相
東中国山地自然環境調査報告 173-191.

14) 登日邦明(1974) 淡路島産蛾類分布資料(II)
蛾類通信 76:261-266.

15) 高橋 匡(1975) 島根高等学校昆虫標本目録
(第1・2報):48-54.

16) 高橋 匡(1975) 島根高等学校昆虫標本目録
(第3報):9-14.

17) 道場正秀(1979) 南部部持 archivalダムの蛾類
について(II) きべりはむし 7(2):2-16.

18) 道場正秀(1980) 朝来郡朝来町須留ヶ瀬の蛾類

19) 新家 勝(1981) 宝塚大橋の照明灯で採集した
蛾(その2) きべりはむし 9(2):17-20.

20) 道場正秀(1981) 徳山郡大屋町田瀬山の蛾類

21) 井上 穴恵(1982) 日本産蛾類大図鑑 Vol.1:
1-968, Vol.2:1-556, pl.3-392, 講談社・東京

22) 夏秋 優・佐々木 昇(1982) 能勢地方の蛾(I)

23) 林 俊雄(1983) 淡路島産蛾類採集記録(II)
PARNASIIUS 28:13-16.

24) 松本健嗣(1983) 神戸・明石近海地域の主な蛾

25) 西岡公明(1983) 三熊山蛾類採集記録[II]
PARNASIIUS 27:7-9.

26) 新家 勝(1983) 宝塚大橋の照明灯で採集した
蛾(統報前の2) きべりはむし 11(1):6-10.

27) 村木三郎(1984) 広峰・増位山系の昆虫
てんとうむし 9:53-58.

28) 夏秋 優・佐々木 昇(1984) 能勢地方の蛾(III)
妙見山・夏の蛾(1) Crude 25:15-22.

29) 松本健嗣(1985) 神戸市山田町の蛾(統報III)

30) 新家 勝(1986) 宝塚大橋の照明灯で採集した

31) 谷田昌也(1986) 水ノ山の蛾類分布資料(1)
IRATSUME 10:30-37.

32) 藤平 明(1987) 南淡の蛾(自刊)

33) 川崎昭人(1987) 佐用郡三日月町の蛾類(後半)
てんとうむし 10:1-10.

34) 岡村八郎(1987) 神戸市摩耶山の蛾類採集目録
てんとうむし 10:37-45.

35) 新家 勝(1988) 宝塚大橋の照明灯で採集した

36) 山本義丸(1989) 水ノ山の蛾類について(後報)

37) 日本野鳥の会(1992) 姫路市自然観察の森内
基礎調査報告書 4-6昆虫類 p.119-151.

38) 新家 勝(1993) 宝塚大橋の照明灯採集蛾
(統報前の10) きべりはむし 21(2):53-64.

39) 姫路市教育委員会(1993) 姫路の昆虫 II
蛾類

40) 藤原正昭(1994) 私版 淡路の昆虫リスト
PARNASIIUS 41:1-4.

41) 岡本 清(1995) ミカエリソウからスギタニア
オケンモンの幼虫を採集 遊鳥千年25.

42) 高島 昭(1995) 淡路島引原ダム周辺における
蛾類第1報 きべりはむし 23(1):6-16.

43) 山本義丸(1996) 兵庫県水上市地方の蛾類(1)

44) 高島 昭(1996) 相生市三熊山麓の蛾(1)

45) 鳥本 清(1997) 高砂の蛾 てんとうむし
11:40-45.

46) 高島 昭(1997) 上郡町で採集した蛾(1)

47) 高島 昭(1997) 姫路市広塚山の蛾(1)

48) 山本義丸(1997) 兵庫県で採集した蛾の記録
きべりはむし 25(2):54-57.

49) 岡本 清(1998) 黒田庄で採集した蛾(1)
てんとうむし 12:30-38.

50) 高島 昭(1998) 黒川の蛾 きべりはむし

(TAKASHIMA AKIRA 姫路市書写2542-2)